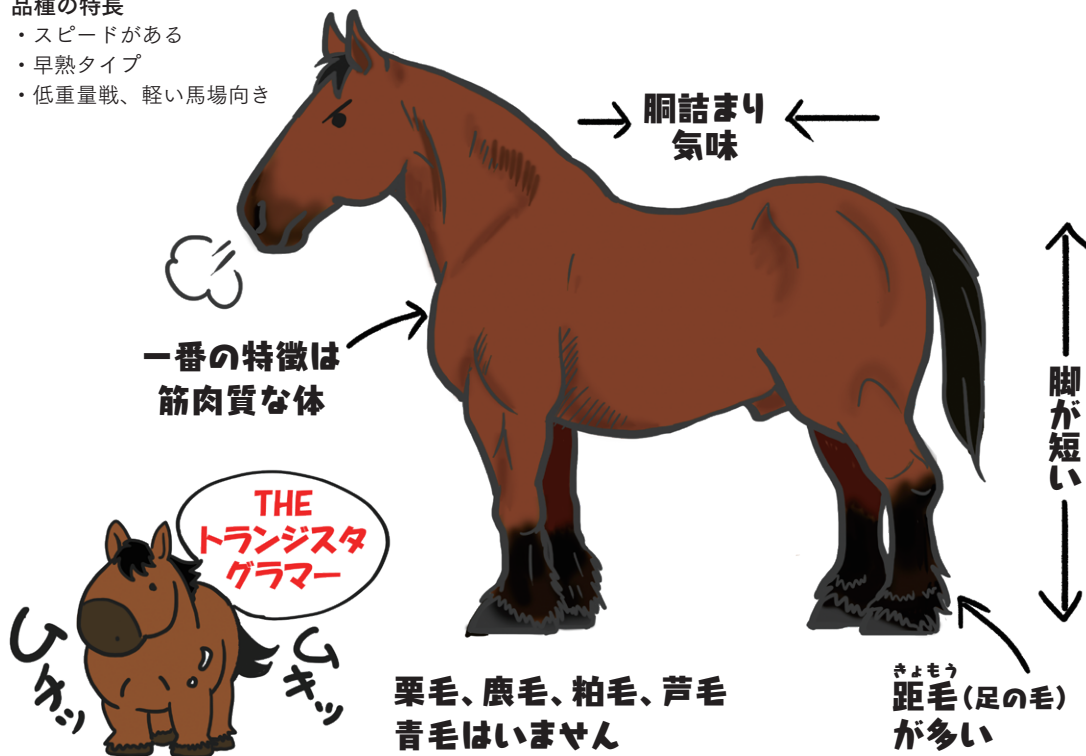


品種の特長

- ・スピードがある
- ・早熟タイプ
- ・低重量戦、軽い馬場向き



ブルトン種の代表的な種雄馬



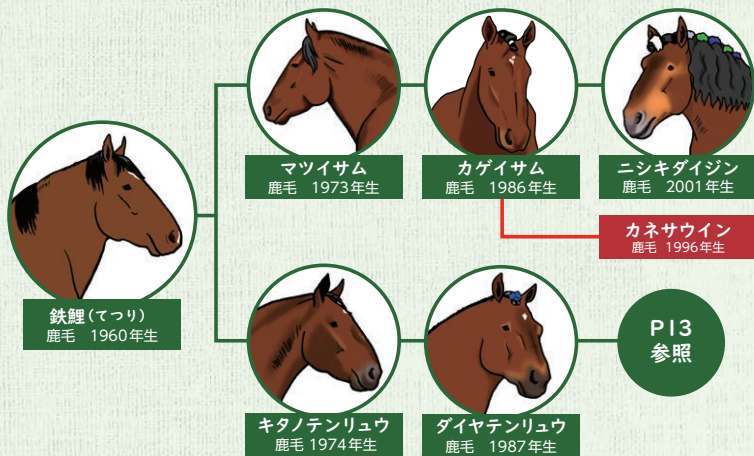
鉄鯉(てつり)

1960年生 鹿毛 北海道 音更町産
血統登録馬数:170頭 種雄馬登録数:41頭

鉄鯉は十勝種畜牧場（現在の家畜改良センター十勝牧場）の生産馬です。父母は仏国産で、国が推進する家畜改良のために輸入された馬です。母が大柄な馬で、鉄鯉もそれを受け継ぎブルトン種としては大きく、1トン近い馬格がありました。産駒は闘争心があり競馬に前向きな馬が多かったそうです。

品種の特長どおり早熟で、世代戦と軽重量戦に向く産駒が多かったのですが、民間で供用されるようになった種雄馬晩年に、ばんえい記念を7歳で制したダイケツを出しました。ダイケツと同年に代表産駒の1頭、名種雄馬キタノテンリュウも生まれています。

今に伝わる鉄鯉の血



ブルトン種はペルシュロン種やベルジアン種より体格が小柄なため、ばん馬の大型化が進むとともに主流から外れていたのですが、鉄鯉の系統は健在でした。主にキタノテンリュウとマツイサムという2頭の名種雄馬を通じて現在のばん馬たちにその血を伝えています。そして近年レースのスピード化にともない、鉄鯉の系統はさらに影響力を増しています。

マツイサム～カゲイサム～ニシキダイジンからは、メジロゴーリキ、コウシュハラレガシー、ゴールデンフウジンなどの活躍馬が出ています。また、カゲイサムは母の父としても優秀で、産駒のカネサウインは、ばんえい記念2勝のカネサブブラック（キングフェスタの父）、名種雄馬カネサテンリュウ（キタノユウジロウの父）兄弟を産んでいます。

キタノテンリュウはばんえい菊花賞を制した名馬で、種雄馬として成功した鉄鯉の代表産駒です。その最高傑作が、年度代表馬となり名種雄馬として一時代を築いたダイヤテンリュウです。その系譜から現在のスターホースが数多く出ています。（13ページ参照）。ダイヤテンリュウの系統はスピードが豊かで、世代戦で活躍する傾向があるようです。